



暮らした森林の共生

例 えば、全国の観光地で流行している町歩きがそうかも。あちこちにある新鮮な発見を見つけているのが町歩きの妙味だが、歩き回るだけでは通り過ぎてしまふ。その地の魅力を知り、町歩きを楽しむには看板やパンフレット、ガイドなどによる案内が不可欠だ。

森を歩く場合も、そうだろう。森の中を散策して自然の素晴らしさを体験するだけでなく、森林が持つ仕組み、役割を熟知すれば散

森の世界に専らいたい」森林インストラクターとは、環境教育推進法に基づいて設けられた制度だ。一般の人々に森林や林業に対する知識を伝えながら森林を案内するほか、森林内での野外活動を指導する。一九九一年度に創設され、二〇〇五年年度末現在、全国で二千二百六十一人が資格を持っていて、矢田貝さんが資格を取得したのは九七年度。自己研さんが目的だった。以来、出身地である県西部を中心に、NPO法人が主催する大山

策の楽しさは倍増する。そして、その楽しさが森林保護につながる。そんな森の案内人ともいうべき役割を果たすのが「森林インストラクター」だ。県内にはまだ数少ないが、矢田貝繁明さん(55)は鳥取県東部総合事務所森林局林業振興課長もその一人として名を連ねる。

「森はきれいで、といったような表面的なことだけでなく、森林の公益性などを伝えて人々を

のブナ林でのウォーク大会や各地の子ども活動の講師などを務める。いずれも、休暇を利用してのボランティア活動だ。

参加者は「森の初心者」が多いため、興味はあっても即物的になりがちだ。キノコを見つけたら「このキノコ、食べられますか」が決まり文句という。そんなとき、矢田貝さんはこう答える。キノコは二通りの役割がある。

国立公園・大山の森林を代表するブナ林。多様な生態系を抱え、公益的な機能を果たしている

保護のタネ蒔く「森の案内人」

企画・編集
新日本海新聞社企画開発部
山陰両県の森林保全などに取り組むNPOなどが参加して「森林を守る」山陰ネットワーク会議が設立されました。新日本海新聞社は活動の趣旨に賛同して同ネットワーク会議などの協力で森林保全の輪を広げる企画を来年3月まで随時掲載します。

「キノコの価値は食べられる、食べられないで決まらないということをわかってほしい」

森林の「成長」を支えるキノコの役割の説明を通して、森林全体が絶妙なハーモニーを奏でている仕組みを参加者に理解してもらおう。そして、森林保護のムードを少しづつ盛り上げていく。それが森の案内人だ。

こんな森林インストラクターだが、県内では数人しかいない。「森林があまりに身近な存在なので、興味が無いのかもしれません」。矢田貝さんはやや寂しげに話した。



キノコを例に森の営みを説明する矢田貝さん(正面)。森林保護の第一歩は森に興味を抱いてもらうことだ。10月22日、国立公園・大山

山陰の間伐材を利用した紙容器入り
ドリンクプレゼント
連載しています。特集・広告に関するご意見を郵便またはFAXで募集しています。抽選で20名様に「間伐材を利用した紙容器入りの飲料」(提供 ポッカコーポレーション/250ml入り・24本)をプレゼントします。ご意見をお送りいただく際にお名前、郵便番号、ご住所をご記入ください。締め切りは11月

30日消印有効。なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送のみに使用させていただきます。〒690-0062 松江市魚町10 山陰合同銀行地域振興部内 「森林を守る!山陰ネットワーク会議」プレゼント係
TEL0852-55-1820
FAX0852-28-0495

森林保全活動レポート
その15

山に関心をもち続けることが、森をよみがえらせる第一歩です。



豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守る!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

「昔はザルやカゴの材料として欠かせなかった竹も、今ではほとんど使わなくなりました。タケノコもあまり多くは食べなくなりました。山に入る人が少なくなり、竹を切る機会が減ると、成長力が強すぎる竹は山を占領し、せっかく植えたスギなどの木の成長を妨げてしまうんです。」

こう語る里山保全グループ「森の仲間」の持田さん。しかし、持田さんの表情は明るい。「山を手入れする作業は、気持ちを落ち着かせてくれます。しかも、山をきちんと管理すると様々な恩恵を受けます。椎茸などの山の幸。きれいな空気。生活の基盤として山はなくてはならないものですから、多くの人々が山に関心をもち続けてほしい。」

荒れた山を復活させるため、「森の仲間」のメンバーはこれからも、活動を続けていきます。



10数年前まではここは竹が生えてない、ごく普通の広葉樹林だった。今では、竹がおおいつくし、どこに広葉樹があるかわかりにくい。切った竹は、プランターなどに再利用されます。



今年5月には、メンバーで田植えを行い、秋に実ったお米をつかって日本酒をつくりました。

今後の活動予定(参加は自由です)
毎月第2土曜日10:00~15:00に下草刈り等の活動実施。
※詳しくは〒693-0033 出雲市知宮町75-2 伊藤さんまで TEL0853-22-1849

今回の森林保全活動レポートその15に登場する

森の仲間
1999(平成11)年に鳥根県出雲農林振興センター林業課で計画、実行された体験学習「いずも森の塾」の卒業生で結成。現在会員60名。山や森を舞台に植林、下草刈り他、椎茸づくりから山小屋づくりまで幅広く活動されている。

森林を守ろう! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみなさん (10月31日現在)

鳥取県
NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
NPO法人 とっとり希望化計画21(鳥取市)
広葉樹文化協会(鳥取市)
財団法人 南部町地域振興会(南部町)
杉の聖・吟醸の会(智頭町)
大山横手道上ブナを育成する会(米子市)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
トリネット(米子市)

日野川の源流と流域を守る会(日野町)
丸山生産森林組合(伯耆町)
三朝温泉かじか蛙保存研究会(三朝町)
森っ子倶楽部(鳥取市)
鳥根県
出雲市林業振興協議会(出雲市)
NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)
NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
財団法人 鳥根県西部山村振興財団(浜田市)
里山を育てる会(松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)

薪ストーブ同好会(松江市)
松江ネイチャーゲームの会(松江市)
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)
森の仲間(出雲市)
遊木民倶楽部(益田市)
特別協賛
新日本海新聞社
山陰中央新報社
特別協力
凸版印刷株式会社

この広告に関するお問い合わせは事務局まで

山陰合同銀行 地域振興部内
鳥根県松江市魚町10 〒690-0062
TEL.0852-55-1820

みんなで森を守ろう!